

# たらのめ(ふかし栽培)

<p>駒木調製</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原木はチップソーを用い、1芽ごとに切断する。</li> <li>・駒木の長さは、7～15cm程度になるように切断する。節間が短い場合は長さを確保して切断後、最上芽を残し下位の芽はかき取る。</li> <li>・切り口は芽の直近で直角に切る。芽を傷めないように注意する。</li> <li>・駒木は乾燥すると大幅減収となるため、駒切り後はすぐに伏せ込む。</li> </ul>	
<p>ふかし施設と資材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●二重構造のパイプハウスを用意する。(間口 5.4+4.5m 又は 4.5+3.0m) 図のように外・内フィルムと遮光資材の三重被覆とし、中にふかし棚や床を設置する。</li> <li>●被覆資材 外被覆 ビニール (高温期はさらに昇温防止資材を外掛けする) 内被覆 ビニール又はポリに遮光資材を外掛け</li> <li>●ふかし棚は三段までとし、各棚は正確に水平をとること。</li> <li>●ふかし容器は水深が1～2cmとなるよう側面に直径15mm程度の排水孔を2～3個あける。ふかし容器の短辺片方だけに開け、作業通路の反対側に排水する。穴が小さかったり少なかったりすると、水の入れ替えが十分に行えない。</li> </ul>	<p>ふかし例 : 2段棚 10アール当り 30㎡必要 (トンネル床面積)</p>
<p>伏せ込み ～ふかし管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前後左右で芽が重ならないよう芽を上側にして斜めに立て、十分灌水し、おがくずを洗い流す。</li> <li>●萌芽促進のためジベレリンを散布する。 使用濃度：50ppm (ジベレリン50mg 入り1包の場合、1リットルの水に1包溶かして50ppmとなる) 使用量：駒木散布200ml /㎡ (ひらたけ用スチロール箱の場合、1リットルで30箱) 時期・回数：伏せ込み時・1回のみ</li> <li>●ジベレリン使用上の注意 駒木が乾いた後、駒木表面が十分濡れるよう、噴霧器でていねいに散布する。散布ムラは発芽・生長の不揃い、曲がり芽の原因になる。散布後は、6時間以上たって(駒木が十分乾いて)から灌水する。春でも必ず散布する。3月以降は萌芽促進より増収・アカメ防止効果が大。</li> <li>●伏せ込み後は毎朝水やりを行う(水の入替えと湿度確保。少なくとも週2～3回は行う)。水は清潔な状態を保つこと。特にふかし始めの1週間はこまめに水替えを行い、よどんだ水にしない。</li> <li>●芽に長時間露が付くよう十分に湿度を保つようにする。乾燥すると、芽が伸びずに葉が開く。ただし、極端な加湿状態は病気の多発原因となる。</li> <li>●本葉が見え始めてからは、本葉に水がかからないように注意する。</li> </ul>	<p>[斜め伏せ法] 45°程度に傾けて詰める。</p> <p>水位 1～2 cm 余分な水は穴からオーバーフローさせる</p>
<p>ハウス内の管理</p>	<p>温度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス温度は5～25℃で管理する。(伏せ込み後、25～30日で収穫できるのが適温)</li> <li>    昼間：28℃以上にしない    夜間：5℃以上を確保する</li> <li>・夜温が5℃以下になるとアカメの発生が増加する。10℃以上では葉の伸び過ぎや病害の原因となる。</li> </ul> <p>遮光</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふかし棚で90%程度の遮光となるように調整する。照度は(曇りの日の正午頃で)1000ルクス程度必要。</li> <li>・遮光資材としては、保温機能を兼ね、不織布や緩衝材等の多重被覆が好ましい。</li> <li>※明るさについて不明なときは関係機関にご相談ください。</li> </ul> <p>湿度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高温期の換気時や暖房運転時は乾燥に注意する。</li> <li>・湿度は80%以上(低すぎると芽が伸びない。常に高湿ではカビが多発。)</li> </ul> <p>暖房施設がある場合の温度設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昼間：15～18℃    温度を高く設定すると、湿度低下による品質低下、収量減少につながる。</li> <li>夜間：5～8℃程度    低すぎると生育が停止するため、収穫までの日数が延び、芽が老化し、品質が低下する。</li> </ul>	
<p>収穫及び出荷</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●伏せ込み後、25～35日で収穫となる。</li> <li>●新葉が伸びすぎず、新葉とホウとのバランスがとれている頃を適期とする。</li> <li>●収穫は、よく切れる刃物で行う。木部は芽とバランスのとれた長さに切り取る。</li> <li>●50g 入りトレーを用いて1パック60g以上厳守し、1kg段ボール箱に20パック入れて出荷する。</li> </ul>	